

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

昨年度は、絵と簡単なフレーズをヒントに物語を創作させるという、かなり突飛な問題だったが、今年度は出題形式・内容ともに例年のものに戻っている。ただし、通常の資料ではなく、人物の会話とそれに添えられた写真だけを見て、そこから問題点を発見させるというのは、従来のSF Cの出題に比べてもやや難易度が高い。そのため、途方に暮れてしまう人もいるかもしれない。ただし、問題までの導入部分を読めば、出題者のねらいははっきりしている。基本的には、2016年度など、近年続いている日常的な場面での気づきの力（問題発見力）と、それを解決するためのデザインを創り出す力（問題解決力）が問われている。

問1は、問2・3に答えるための小手調べのようなものだろう。例は何でもかまわない。「紙は、文字による記録を後世に残すために、文字を簡便に記録し、それを大量に蓄積できるようにするよう」に作られた」レベルで十分。

問2は、問3でどれかを選んでそれを「解決する方法」を示さなくてはならないので、その点も考慮に入れて考える必要がある。

会話の中でかなり露骨にヒントが示されているので、気になる点を3つ挙げることはそれほど難しくないだろう（「3時を過ぎないとバスが来ない」「階段がくたびれていて危険」「構内のポストが一つしかない」などなど）。ただ、それらが「なるべく根本的な問題を発見してください」という条件に当てはまるかどうかは疑問。

会話では否定的に言及されているわけではない事柄や、写真に写っているもので、会話の内容と無関係な細部にも注目してみよう。そうした複数の情報を組み合わせて考えてみることも重要だ。

「階段にスロープなどがついていない（または、研究棟から生協へに行く道が未舗装で滑りやすい）ので、身体障害者や高齢者などが使いにくい」「メディアセンターが現状では多くの市民に開かれた場所になっていない」「直近の駅がターミナル駅である以上、バスに乗る学生が多くて混むということは、それだけ一般の客が迷惑している可能性がある」など、一步踏み込んだ答えができるかどうかは、それこそ観察力・問題発見力が問われるところだ。少なくとも、問3で解決法を答えるつむりの「問題」だけは、なるべくそうした鋭さを感じさせるものにしてほしい。「学生や教員にとってどうか」だけではなく、学外から訪れる人や地域社会、一般の市民のことなど、視野を

広げて考えてみるとよいだろう。

問3は、字数指定がないが、500～600字程度は書くほうがまとまるはず。その場合、最初に自分の考える解決方法をずばりと示した上で、第2部以降でそれを検証していく形にするとよい。問2の答えが表面的だと、問3の答えも表面的になってしまうが、逆に問2の答えが抽象的・観念的すぎると、「実現可能性がある解決方法」が考えられなくなってしまうので、その点も十分気をつけてほしい。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>